平成 19 年度　秋期　システムアナリスト試験　採点講評

午後 I 試験

問1

問 1 では，工場における製造管理業務のシステム化構想について出題した。全体として正答率は高く，題意はおおむね理解されていた。

設問 2(2)では，製品の不合格を低減するための実績情報の活用方法について解答を求めた。活用する情報は正しいが，製品の不合格が発生する要因である“異なる製品を切り替えて製造した場合の製造順序”の理解が不十分な解答が多く見られた。

設問 3(2)では，設備故障時に保守担当者へ効率よく指示するために，導入した無線 LAN の活用方法についての解答を求めたが，題意と異なり，携帯型の端末がもつデータ表示や参照などの記述に関する解答が多く見られた。

システム化構想を検討する際に，現状分析の結果を受け，システム化が必要な改善項目と，運用中のシステムの活用やマニュアルなどの文書の見直しで改善できる項目の区別を的確にとらえてほしい。

問2

問 2 では，卸売市場内の物流業務と場内情報システムの構築について出題した。全体として正答率は高く，状況及び題意の理解ができているようであった。

設問 1 は，正答率が高かった。出荷確定情報のどの項目をシステムでどのように使うのかについての解答を求めたが，“運転手や要員などに○○を指示する”といった単純なシステム機能だけを記述したものがあった。

設問 3 は，正答率が低かった。RFID が未装着の格納容器が市場に到着するので，入場時点での対応策についての解答を求めたが，出荷者への対応策を記述したものや，単に“未装着の場合の対応策を検討する”とした記述などが多く見られた。

要件定義などの局面で，問われていることは何か，解決すべき対象は何かを慎重に見極めるようにしてほしい。

問3

問 3 では，コールセンタの再配置について出題した。全体として正答率は高かったが，設問の趣旨にそわない解答が一部に見られた。

設問 1(1)では，社員が，平日など本社に出勤している場合と，休日で自宅にいる場合の両方について記述する必要があるが，一方だけの解答が多かった。また，問題文に“人員確保のための立地条件”と明示しているのに，地理的に分散配置するという解答が多かった。

設問 1(2)では，継続して就業できるという記述をしている解答が少なかった。問題文にある“採用費及び教育費が増えている”という状況を明確に理解した受験者が少なかったと思われる。

設問 3(2)では，問題文に“スタッフの人員の増加を抑えるために”と明示しているのに，オペレータの人員削減について記述している解答が目立った。

解決すべき問題は何かを正確に把握して，システム面やその他の対応策を考えるようにしてほしい。

問4

問 4 では，総合家電メーカの業務改革の推進とシステム化構想について出題した。題意はおおむね理解されていたが，受験者によって，解答の正誤がはっきりと分かれる傾向が見られた。

設問 2 は，法人営業部の営業プロセスにおいて，法人顧客に対する深耕度合いと顧客開拓の目標達成度合いを管理する指標について解答を求めた。設問 2(2)の目標達成度合いの解答では，受注の金額合計など営業先企業の規模や特性に影響されるような指標の解答が多く見られた。営業先企業の状況によって左右されない指標の設定を考慮してもらいたい。

設問 3 は，需要即応型の生産体制を確立するための要件として，販売計画策定時の引当枠計画の予測精度向上のために，生産管理システムから営業支援システムに連動する情報について解答を求めた。正答率は高かったが，受注や生産時点での情報に関する解答が一部に見られた。

業務改革の推進を支援し，システム化構想を立案する要件定義の段階では，システム化すべき機能の前提として，業務間の連携の在り方や業務改革の達成度指標についても考えるようにしてほしい。

Copyright(c) Information-technology Promotion Agency, Japan. All rights reserved 2008